

国際交流協会会長退任のご挨拶

崎山征雄

人生60歳は下山の時、前半の登山のときを終えたら今度は下山の時期なのです。下山は寂しく惨めな事ではなく、穏やかで豊穡で、それまでの知識や情報では及びもつかなかったような知恵に触れる時なのです。重い荷物を背負ってひたすら頂上を目指している最中は下界を振り返るゆとりもなく、勢い付けて一生懸命登ってゆく。下山の時は達成感と満足感で充足して下界を眺めて、美しい高山植物に、雷鳥に、雲海を愛でながら無事最後まで降りることです。終わり良ければすべてよし。

人の一生は25歳まで人生の学びの学生期（がくしょうき）、50歳までの社会人、家庭人としての家住期（かじゅうき）、50歳過ぎたら人生を振り返り自分の生きたいように生きる林住期（りんじゅうき）、75歳からは自分を見つめ直して、いつ来るかもしれない「死」を目前に自然に回帰してゆく遊行期（ゆぎょうき）、の四つに分かれるとか。（古代インド哲学より）

また、中国では四季を青春・朱夏・白秋・玄冬と表し、青春の次に燃えるような夏、その後ろにハーベストタイムの白秋が見え、白秋の後ろに黒々とした冬が控えているという思想です。人が生きている喜びを謳歌する時、それが失われる時がかすかに後ろに見えていてこそ一層鮮烈に感じられる。玄冬の玄は幽玄の玄、玄妙の玄。深くつややかな黒で、そこからまた新しいものが始まるとか。

今私は2021年1月で80歳。遊行期で玄冬期。自然回帰となりました。老いるのではなく、熟成して質感が限りなく高まり、まろやかに自然に回帰してゆく（あたかもヴィンテージワインの如く）季節なのです。腐るのではありません。熟成するのです。



姉妹都市の絆を記念して建てた彫刻の前で（タスカルーサ市ブラックウオーリア河畔）
中央左側が崎山前会長

そしてそろそろこの辺で「覚悟」するしかないな、と「諦める」「覚悟」を決めました。「諦める」は投げ出す事ではなく「明らかに究（きわ）める」こと。事実を真正面から受け止め、「希望と絶望」という最後まで人間の捨てきれない煩惱を見据えて、「諦めきれぬと諦める」と最後まで「明らかに究める」為に覚悟しました。「地獄は一定（いちじょう）すみかぞかし」（歎異抄）。この世はいくつになっても、生きる悩みに取り囲まれた煩惱の地獄と、親鸞は言いました。

さて私は「国際交流協会」で多くの大事なことを学びました。

「井の中の蛙、大海を知らず」という諺があります。大事なことは、この蛙が大海を知る可能性がないにしても、井戸の中にいる自分を、井戸の外から眺められることさえできれば、いくらかでも大海を知る事ができるような気がします。2010年、NIA 会長就任以来11年間、タスカルーサなど世界の様々な処に行き、多くの方々と出会う機会に恵まれ、学ぶことができた時、その蛙の私が井戸の外に出て、井戸の中を眺める事ができた気持ちが

しないことありませんでした。

今、皆様は日本という井戸から出てきて、NIAの一員として、世界の中のタスカルーサを習志野を外から眺め、広い世界を学び、国際化活性化に共に働く立場となったわけです。大きく目を開いてください。皆様は井戸の外に飛び出したリーダー蛙なのですから。これからの習志野の国際化を指導してください。

全ての事は理解することから面白くなります。国際交流は、まず世界を理解することです。義務感のみで、良い事だからと、内容も結果もどうなるかも分からないことほど、面白くないことはありません。そのためにも我々は NIA の原点の一つ、「親しい友人の集まりという国際交流の心と原点」を大切に、日本人の昔から育み教えられた倫理道を実践して、弱者を助け、強者から逃げないという、

戦わずして勝つことを最上の手段とする「和の心」の新渡戸稲造の武士道、これが国際交流の精神そのものであると考えます。そこから国際交流のリーダーが生まれます。

LEADER とは

L : Listen 相手の思いを聴き、こちらの思いを語る

E : Enthusiastic 情熱的に熱意をもって

A : Ambitious 大いなる志を持って

D : Dream 夢をかたちにしながら

E : Enjoy 楽しみつつ

R : Rational 合理的に、理路整然と、感情に溺れるところなく

11 年間、多くの方々に支えていただき会長職を続けることができたことに、心から感謝申し上げ、退任のご挨拶といたします。